

上町商店街振興組合

宮崎県日向市



組合概要

発足年 1969年(昭和44年)

組合員数 53店

組合の組織

組合役員数：21名

出資金：一口10,000円

賦課金：月3,000円

組合員構成

生鮮食品等：1店 / 特定加工食品：2店 / 総合食料品：1店 / 食料品以外：49店

話し合いを重ねて皆で作り上げ、生まれ変わった商店街

【中心市街地活性化事業などを活用した街づくり】

日向市の中心部に所在する上町商店街は、かつては日向市を代表する活気ある商店街であったが、駅前などに大型スーパーが出店し、その後相次いで撤退あるいは倒産するなどしたため、その影響を受けて日向市の商業が全体として衰退していく中で、活気の喪失等厳しい状況を余儀なくされた。このような衰退傾向を阻止し、再び賑わいを回復するためにはどうすべきか、市、商工会議所、商店街が話し合いを重ね、三位一体となって取り組みが行われるようになった。

平成3年頃から始まった新たな街づくりは、上町商店街振興組合だけでなく、商店街の位置する駅前の区画整理事業、駅高架事業そして商業集積事業という3つの事業を総合的に行うものであった。

平成3年には中心市街地活性化事業として特定商業集積整備基本構想に向けた調査を開始し、平成9年には全体構想をまとめ県知事の認可を得た。構想に基づいて事業を実施すると、換地などにより移転を求められる商店主も出てくるが、その優先順位、手法など徹底的に議論して、やる気のある商店主を、居住を条件に駅前の中心地に移転してもらった。

平成15年には上町地区集積区域整備事業を実施、景観を重視して特徴のある商店街を造成した。

平成18年には日向市駅の高架事業が完成、これにより徒歩あるいは自転車で市民が自由に駅下を歩き来できるようになった。

なお、日向駅舎は国際的な鉄道コンクール「第10回ブルネル賞」を日本の駅舎として始めて受賞したとのこと。

平成22年には、駅前の交流広場「ひむかの杜」に「木もれ日のステージ」ができ、交流広場が完成

した。商店街へは駅からこの交流広場を抜けて入っていく形となっており、商店街の玄関口ともなっている。

[景観に優れた特徴ある街づくり]

駅の高架事業などと同時並行する形で上町商店街の再生事業が行われたが、事業に当たっては、市、商工会議所、上町商店街振興組合、さらに外部からの専門家を招き合意形成に徹底的に時間を費やした。この商店街再生事業は、単なる区画整理などではなく、商売をやりたい人の店を優先させた街づくりを実施した。

街区として区割りされたゾーンは、景観に配慮したスナックなどの飲み屋街、飲食店、洋品店など街区ごとに景観を配慮した特色のある町並みが形成された。

また、小さな公共スペースひとつにも話し合いを重ね、その場所への思いや共同体への参加意識を促すことにつなげた。

街作りには、地元の特産物である日向杉を多用し、街路灯、ベンチなどに使用して昼夜いずれにおいても洗練されたデザインとなるよう外観を統一した。

換地等に当たっては、店舗と住居を併設する店作りを行ったことで、市街地の人口が増え、地域の安全に不可欠な地域住民を確保することができるようになった。

[イベントの充実と誘致]

商店街の活性化のためには、折々のイベントの開催や売出しなどの商店街全体としての取組みが欠かせない。宮崎県は野球のキャンプ地として知られているが、このイメージを利用して萩本欽一氏の野球クラブチーム「茨城ゴールデンゴージャズ」のキャンプを受け入れている。この誘致もあって平成22年11月には駅前の交流広場の「木もれ日のステージ」で、「欽ちゃんのおみこし大賞」のイベントが開催された。

このほか、日向ハロウィン、土曜夜市、日向十五夜祭などを開催し、賑わい回復や集客に努めている。

また、商店街としての販売促進ツールは、日向ひまわりスタンプ及びAVA共通商品券の発行を行っており、商店街組合の運営においては、定期的に組合新聞を発行し、組合員相互間のコミュニケーションの円滑化に努めている。

【組合立地】

宮崎県日向市の駅前西口地区に位置し、商店街のエリアは1.4ヘクタールほど。

核店舗がディスカウントショップのトライアルと食料品スーパーのながの屋の2店舗あり、駐車場は商店街として60台、トライアルが700台、ながの屋が90台で、駅前に駐輪場がある。

商圈人口は、日向市が6万人弱で周辺併せて10万人程度。その中で複数の商店街、3つの大型ショッピングセンターが競合している。

客層は、駅前にあることから学生児童、買物弱者と呼ばれる高齢層まで幅広い。

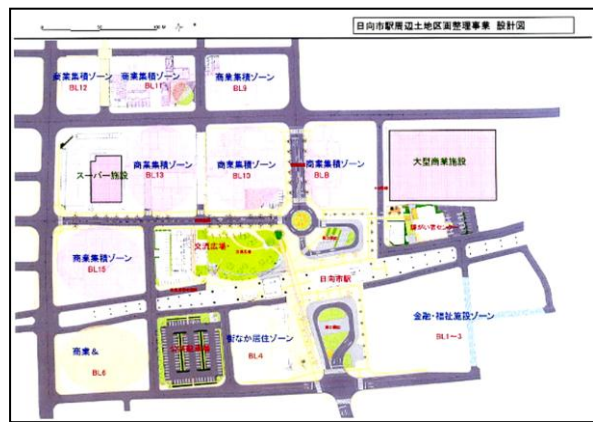
【組合実績】

組合所属店舗の業種は、生鮮食品等1、特定加工食品2、総合食料品1、その他49、合計53店となっている。空き店舗は現状なし。商店街事業としては、単独というより日向市、市商工会議所、教育や介護のNPO法人などと協力して取り組んでいることに特徴があり、駅前ステージを使ったイベントなどで集客を図っている。

スタンプ、共通商品券の発行、欽ちゃん球団と連携したイベントの実施、木を生かした調和のある街づくりを推進している。



↑左からまちづくりコンサルタント 三堀俊之さん、
組合理事長 則貞通純さん、日向市市街地整備課長 松田洋玄さん



←区画整理された駅周辺



↑景観に配慮し街区として区割りされた街並み



↑駅や駅前交流広場にて開催される季節ごとのイベント